

学体連会報

発 行 日 平成 2 年 3 月 15 日
東京 都 渋谷 区 代々木 神園 町 3 番 1 号
国立 オリンピック 記念 青少年 総合 センター 内
財 団 法 人 日 本 学 校 体 育 研 究 連 合 会
発 行 者 会 長 大 石 三 四 郎

公 益 信 託

会 長 埼玉 短期 大学 長 大 石 三 四 郎



昭和 52 年の夏頃、筑波大学の副学長時代、私に財団法人日本体育研究連合会（学体連）の会長をやるように文部省の体育局長より電話があった。大学は当時創設したばかりであったので御断りすると言うことになった。ところが柳川寛治文部省体育局長より強い要望が重ねてあったので筑波大学もやむを得ず学体連の会長に就任することを認めた。この時は学体連は大変な時であって今日、12 年も経って当時の事務局長に会うとよく日本学校体育研究連合会の会長をうけられましたねと言われた。本当に財政的に裏づけがない学体連ではあったが文部省の責任者の指名であるから、いずれはなんとかしてくれるのかなあと漠然と思いながら仕方なしにコワゴワ出発進行したのである。本当に薄氷を踏む思いの毎日であった。ところが案ずるより生むはやすしと言うわけで、放っておいても世の中のだれかが助けてくれるという、学体連には大きな信用がついていたのである。この助ける人のなかに日本教育シューズ協議会が参加したのであった。

しかし、現実はいかに甘いものではなかった。それに助ける人といっても商売人だから、物を売りたいのである。だから商売人でない私が売手になり、手助けしなければならない。その為に色紙に下手な字をかいたり、恥じもかいたり、色々苦心惨憺したものである。それに今思い出すと私も文部省もビックリしたのは学体連の昔のマークを他に売り付けようとして、ある人物が文部省にドナリこんで来たときである。これも何とか切り抜けてどうやら今日まで生き続けてきた。その当時の加戸体育課長に大変御手間をいただいたことを思いだす。当時また他の学校

体育団体が新聞で募金のことで問題にされていた。学体連もまた問題になるのかと心配したことがある。事実はドウモ、小中高のスポーツや体育に関係した経費がないことが病根のようだとこのときほど感じたことはない。文部省も大変だと心底からおもった。このことは大学でも同じなのであった。

そのうちに学体連に協力して下さった日本教育シューズ協議会の黒田浩平氏が学体連に協力する方法を公益信託という形式にしてみたいといってきた。私は実のところ駄目ではないかとおもっていた。ところが十年近く経って、昨年公益信託の認可がおりたのである。そして協力を受ける団体も多く慶賀にたえない。

日本教育シューズ協議会に属する人たちのために色紙をホテルで夜中まで書くことも屢々であった。下手な字を書くものだから、妻から恥じをかくと禁じられていたのが、隣の奥さんが九州の転勤先でパート先の高校の校長室に私の色紙が飾ってあるのにビックリして家に電話してきたのでバレタことがあった。それに去年のソウルのオリンピックのときに選手の母校の校長の NHK の記者会見のときの背景に私の色紙がでていたこともあって驚いたことがあった。

考えてみれば、永年苦勞してきた私にとっては嬉しいことである。母校の大学の運動部に毎年寄付したり、障害者関係に献金したりしてきているが、若い人達に協力出来ることを本当に感謝している。私も元気で働かして頂いているが知らないうちに七十四才になっている。

今後、生きている間小中高大の児童、生徒、学生

のために捧げたい。

それは、この公益信託のようなものを、学校教育に尽くすために、如何にして数多く創るかという問

題である。今回ここに公益信託なる題目で取り上げさせて頂いたのは、私のささやかな発案を全国の同志に聞いて頂きたいからであった。

小学校における体育研究の実態をみて

千葉大学教育学部教授 広 橋 義 敬



1. はじめに

全国学校体育研究会千葉大会の第4分科会は、千葉県市原市立戸田小学校を会場に開催された。当日は戸田小学校の第60回記念の全国体育公開研究発表会と兼ねており、全国学校体育研究大会への参加者と戸田小学校の公開研究会への参加者が一緒に、非常に熱気につつまれた研究大会であった。

特に、戸田小学校は昭和5年の公開研究会から60年間幾多の試練を超え、一貫して「体育を通した人間教育」を提唱し、現在もその伝統を受け継ぎ研究に取り組んできた点は他校にみられない特色であると考えられた。

現在の研究テーマは、「生涯にわたって健康体力づくりを目指す児童の育成」、サブタイトルとして「一人ひとりが目あてをもち生き生きと取り組む体力づくり」を掲げて進められており、今日わが国の小学校体育にみられる「表層的な運動の楽しさを求める」指導に対して一つの警鐘を鳴らすものになった点が特筆されよう。

2. 研究内容概要

(1) 授業発表について

当日は生憎雨天の為、授業発表は全て体育館において展開された。具体的には、特殊学級を含む1年生から6年生までの合計7学級の授業が、主運動を中心に展開された。

授業発表で特筆される点は、一人ひとりの児童が研究テーマに迫る実践を主体的にできるように、常に体育に関する実践的学力を高める配慮のもとに展開されたことである。60年にわたる授業の展開のノウハウを全てに駆使し、しかもよくわかりよくできるをモットーに、体育ノートやカードを中心にVTRをも活用した指導は、価値実現の楽しさが体得できるものになっており、多くの参加者の注目を引くものになっていた。特に、特殊学級の展開は60回を記念する公開研究会にふさわしい内容であり、児童

の活動と教師の指導の一体化された姿には胸を打たれるものがあった。

(2) 研究発表について

研究発表については、まず戸田小学校における研究の歴史及び現在の研究テーマ、その研究テーマに対応する研究組織について述べられた。具体的には①体育研究部においては教科体育及び教科外体育の研究を担当し、教科体育では研究テーマの具現化を目指す指導計画及び指導法の究明を。また、教科外体育においては体育的行事及び日常の体育生活の充実のための諸活動の適正化に関する研究成果についての発表がなされた。②特別活動部においては各種の委員会活動、集会活動、学級会活動、クラブ活動の活発化に関する研究成果の発表がなされた。③施設・環境、記録資料研究部においては、その充実方策及び地域社会との協力関係について研究成果の発表がなされた。

(3) 研究協議について

戸田小学校の60年間にわたる研究に対する敬意と賞讃、及び60年にわたる研究推進が可能になった背景についての質疑応答が中心になって協議がすすめられた。また、戸田小学校の体育研究が古くはデンマーク体操を中心に展開され、今日に至った経緯についても多くの質疑がなされ、結果として、体操中心の学校体育の指導を受けた卒業生の多くが古くから体操の日常化に取り組み今日に至っていることが紹介され、単なる運動の楽しさを味わわせる指導ではなく、ためになることを楽しく行える能力、態度の育成こそ生涯体育を目指す指導であるということが共通理解された。

3. まとめ

雨天で指導の展開は十分ではなかったが、研究発表、研究協議を通して、学校体育の今日的課題の解決に迫る協議がなされ、大きな成果が収められたと考えられる。

「中学校における体育指導と生涯スポーツのかかわりについて」 —学校体育と社会体育の接点—

群馬大学教育学部教授 日 丸 哲 也



社会一般でも、運動不足に対処するため運動する人、スポーツを愛好する人など関心をもつ人々が増え、諸スポーツ施設が特に都市部ではフルに利用されている現状である。しかしながら教育の中の体育に対する学校の姿勢は、一般的に、低調であるといえよう。運動スポーツの傷害事故の不安などもあって消極的になっている面もある。教師、親が生徒の健康には深い関心があっても、体育については意識が乏しいことが多い。背景に進学という難問がある現状では容易いことではないが、学校も家庭もそして社会も全体として生徒たちに運動やスポーツを生活化し実践できるように積極的に援助できれば自分の能力を自分で伸ばすことのできる健康で活力のある生徒が育っていくだろう。

それ故に生涯スポーツを推進していくために、学校体育と社会体育の目標の接点が重要である。学校体育と生涯スポーツ、社会体育と生涯スポーツとそれぞれの生涯スポーツへの結びつきを問うより、学校体育と社会体育の連続性そのものが生涯スポーツであると捉えることが有効であろう。

生涯スポーツの時代を迎えた今日、多様化・高度化したスポーツ・ニーズに対応すべく適切な指導を実施できる社会体育指導者の養成・確保の重要性が指摘され、文部省が社会体育指導者として、地域スポーツ指導者、競技スポーツ指導者、スポーツプログラマーを厚生省が健康運動指導士や実践運動指導者を更に労働者がヘルスケアトレーナーをそれぞれ養成している最近の動向と実態を学校の教師が十分に把握しておくことが望まれる。学校体育の目標として「思うような動きができること」と「運動を実践する習慣を身につけること」に求めるとき、社会体育の目標では「スポーツや身体活動を自由に実践する機会の提供」といったことは、学校体育と社会体育の連続性が生涯スポーツ推進の有効な方策である。

いづれにしても学校体育は、体育の学習と生活との関連を重視し、特に生活に体育の学習をどう繋いでいくかというところに新しい局面を生み出そうとしている。従来、発育発達に応じての体力づくりや

運動能力を高めることを目標にしてきた。これまでの学校体育の在り方を生徒一人一人がスポーツをいわば生涯の生きがいとして選択し、それによって常に自己実現をはかっていけるような主体的能力を得るように指導することを重要な任務にしなければならない。人間の形成は、学校も社会も家庭も含めた広い意味での社会全体で行われているものであり、学校はその役割の一部を担っているに過ぎない。生涯スポーツの立場から学校体育の果たすべき役割は、生涯スポーツの基礎として、生涯に亘る運動生活やスポーツ参加への意欲と能力の根底を形成することに責任を負うことになるだろう。

運動やスポーツに対する生徒の自発的な興味・関心や学習意欲を重視し、それを発展させるような学習指導の理論と方法が開発され、生涯を通じての自主的な運動の実践やスポーツ参加を促すには、いろいろな活動の中から自分に最もふさわしい活動を主体的に選択した活動を長期的な立場から指導することが重要である。スポーツ種目の選択の仕方には、生徒個人のもつ、ねらいや意欲に応じていろいろ考えられる。自分の好きな、かつ得意な種目だけを選んで、深く取り入れようとする生徒もいれば、いろいろと好奇心から多くの種目を広く浅く選択したい生徒もいる。いずれにせよ、施設や指導の都合で制限されるけれども、多くのスポーツが食わず嫌いになってしまい、その運動経験の範囲は極端に狭められることも考えられる。このようなことがないよう学習指導が行われるにしても、結局、深さか範囲かの二者択一的傾向を消し去ることはできない。生徒の発育の激しい時期に、いかに個性重視の原則を標榜するとはいえ、基礎・基本となる運動経験の欠落や体力の偏りを見逃すことのないように留意しなければならない。また、体育やスポーツが、これまでのように青少年期だけのものでなく、生涯にわたって発展的に行われなければならないことが強調される。特に今日のスポーツがあらゆる人々にとって健康上必要な身体運動の機会としてだけでなく、生活の全領域にかかわるいわば「普遍的な生活の教養」として行われることを指摘し、これからの体育・ス

スポーツ教育は、他の知的・道徳的教育の分野や社会的・文化的諸活動とも連携して全人格的な発達と統

合に積極的に寄与するものでなければならないだろう。

選択制授業導入の課題

—千葉大会第 13 分科会から—

東京都教育庁体育部体育科・指導主事

高 田 日 呂 美



新しい高等学校学習指導要領の体育における内容改訂の大きな柱の 1 つは、各学年において体操以外の各運動領域を選択して履修できるように改められたことである。第 28 回全国大会第 13 分科会では、生徒の個性と運動の特性を生かした体育指導—課題選択制の導入—を主題として研究発表と協議が行われた。

1. 分科会の内容

会場となった市立千葉高校の授業公開と県立千城台高校の研究発表が行われた。市立千葉高では、生徒の自主性を伸ばす体育の効果的指導を求めて—客観的評価方法の採用と体力の向上を目指した体育指導—という実践発表が行われた。「市立千葉」体育の伝統を受け継ぎながら、新しい体育を目指した日頃の実践報告であった。特に、評価の方法と学習カードの活用が工夫されており、ゲームカードを用いた生徒の積極的・自主的な授業の展開が図られていたが、これは、選択制授業の具体的な展開に生かすことのできる内容であった。

県立千城台高校からは、生徒の個性と運動の特性を生かした体育指導—課題選択制の導入—を主題とした研究発表が行われた。課題選択制を一斉授業と選択制授業の中間に位置付け、それぞれの種目の中から自分の能力・適性に応じた運動課題を選択して自主的に授業を展開する方法を開発し、実践研究した発表であった。器械運動・バレーボール・剣道・縄跳びについての授業の展開例と、単元資料として運動課題表・難易度表・技能評価内容・得点表などの豊富な資料が紹介された。これは、選択制授業にとって貴重な実践であり、多くの示唆を与えてくれる内容の発表であった。

2. 選択制授業の課題

選択制授業は、自主的学習態度の育成、グループ活動による組織的な学習経験、活動欲求の充足と体力の向上、生涯スポーツへの運動継続の動機付けなどの特色がある。選択制授業を導入する場合には、

まず選択制について使用する用語を整理して、共通の認識を持つ必要がある。

ア、選択する主体による分類

①学校選択：選択する領域・種目を学校等の実態を考慮して教師が設定する。

②学級選択：クラスで行う種目を選択する。

③生徒選択：生徒が自ら行いたい種目を選択する。

イ、選択する領域・種目による分類

①領域選択 ▶ 個人的スポーツ、集团的スポーツ、ダンスの中からの選択。

②種目選択 ▶ 各領域の中からの選択。個人的スポーツから陸上競技を選択する。

③種目内選択 ▶ 各種目の中からの選択。陸上競技の中から短距離走を選択するなど。

次に選択制授業を導入した年間計画を作成する必要があるが、次のような類型が考えられる。

A 型 ⇒ 3 年生で選択制授業を導入する。

B 型 ⇒ 1 年選択制 1 単位、2 年 2 単位、3 年 3 単位。

C 型 ⇒ 1 年学級選択 2 年グループ選択 3 年個人選択

D 型 ⇒ 様々な選択の方法の導入。領域・種目によっては男女の合同も可能となる。

E 型 ⇒ 各学年の一部を同じ方法で選択できるようにして学年合同の選択の実施も可能。

F 型 ⇒ 全学年すべて選択制授業を実施。

さらに、選択制授業を導入する際の課題としてはア、選択種目の設定と指導計画の作成。

イ、授業の具体的展開方法の開発と安全の配慮。

ウ、グループ編成の工夫と希望調整の方法。

エ、学習ノート、学習資料の作成と活用。

オ、施設設備・器具用具の改善充実。

カ、指導の充実を図るための研修の充実。

これからの学校体育が、体育・スポーツを通して人格の陶冶を目指すという役割とともに、生涯にわたって体育・スポーツに親しむことのできる能力・適性を育成するという役割がますます大きくなる。

第 28 回全国学校体育研究大会

千葉大会を終えて

千葉県実行委員会々長
千葉県立君津高等学校長

鈴 木 純 也



激動の年といわれた平成元年、第 28 回全国学校体育研究大会が、菊香る 11 月 9 日・10 日の両日にわたり千葉県文化会館を主会場にして、全国より 3000 余名のご参加をいただいて開催されました。「自ら運動に親しみ、豊かな心と健やかな体を育て、生涯スポーツをめざす新しい学校体育を求めて」をメインテーマとして県下 9 市 14 分科会場で繰り広げられました。本大会を開催するにあたり、文部省・日本学校体育研究連合会、千葉県教育委員会並びに千葉市をはじめとする 9 市の各教育委員会のご懇篤なるご指導、心暖まるご支援をいただきました。お蔭をもちまして成功裡に無事終了することができ、心より感謝申し上げます。また、あいにくの悪天候の中を、全国各地より意欲的にご参加の上、熱心なご協議をいただきました同志の先生方に、あらためて感謝申し上げます。そして、日本学校体育研究連合会より表彰をうけられました保健体育優良校及び功労者の皆様には、永年にわたり学校体育の向上・発展に貢献されましたご功績に対しまして、深甚なる敬意と慶祝の意を表するものであります。今後とも学校体育の充実・発展のためにご尽力をお願い申し上げます。

「新学習指導要領と体育指導」と題しました文部省杉山体育官の解説も、時宜を得た有益なものであり、「生涯スポーツと学校教育」の演題による外山滋比古昭和女子大学教授の講演も、示唆に富むものと感銘をうけ、会員諸兄にも好評でありました。あらためてお礼申し上げます。

本大会開催にあたり、関係者相集い意見交換をしましたが「準備期間が短い」ということで、数々の危惧が出されました。「公開授業は実施しない」という条件で受託しましたが、「この大会は、千葉県の体育を知ってもらふ絶好の機会である。期間は短いが授業を公開して、全国の先生方に観ていただき、ご指導を仰ぐことが千葉県の体育の向上につながる。

是非、公開授業を実施しよう」との声が湧きあがり決定をみたわけでありました。幸いにも、悪天候の中を、また、急遽予定をした状態にもかかわらず、数多くのご参観をいただき、当該校も大変喜んでおりました。大会終了後は「公開の機会を与えていただき大変感謝しています。できれば天候に恵まれて予定どおりの授業を観ていただきたかった。残念です」という声も聞き、感銘をうけました。

また、日頃、研究面を含めて交流の少ない幼・小中・高・特殊学校・園が一体となった計画の樹立が必要であり、それぞれの組織を大切にしながら、それぞれの研究の特色を生かし、全体としての調和を図ることが大切であります。色々と建設的論議が進められる中に、互いの交流が生まれて幸い一致点を見出すことができました。終了後、折角コミュニケーションされた貴重な交流を、組織を解散してしまうのは惜しい。これを将来に生かすべきではないかとの声もあり、嬉しい賀沢な悲鳴もあがっている現在であります。

実質 1 年の準備期間でありましたので、反省といえれば枚挙にいとまがないと思いますが、ご参会の先生方の暖かいご厚情をうけて無事終了することができました。「成せば成る、成らぬは人の成さぬなりけり」の言葉が甦ってまいりました。21 世紀に生きる児童・生徒のために、今、我々が成すことは何かに想いをいたし、個人差に応じた、子供の側に立った指導法の研究に意欲を燃やし、生涯スポーツの中の学校体育の使命を着実に実行する教師でありたいと、しみじみ思う昨今であります。

最後になりましたが、日本学校体育研究連合会の益々のご発展と、全国の学校体育指導者のさらなるご活躍とともに、平成 2 年度第 29 回北海道大会の輝かしいご成功を心より祈念して、千葉大会の報告並びに感謝の言葉といたします。

どうも有難うございました。

東京の横綱 栃錦

学体連事務局長 重 田 一



1. はじめに

東京都江戸川区には、現在小学校が71、そのうち校名に「小岩」のつく学校が11もある。例えば小岩小、東小岩小、下小岩小、上小岩小……等々。第44代横綱栃錦、春日野清隆は、大正14年2月20日、蛇の目傘を作る大塚家の二男として江戸川区小岩に生まれ、昭和6年4月1日小岩小学校に入学、翌7年9月28日、下小岩小学校開校と同時にここに転校し、12年3月卒業している。小学校時代の身長・体重を昭和63年度全国男子の身長・体重と比べると次の通りである。

	1年・6才	2年・7才	3年・8才	4年・9才	5年・10才	6年・11才
身 大塚少年	121.2 cm	130.9	134.8	140.5	145.3	151.0
長 全国男子 昭63年	117.16	122.97	128.42	133.27	138.57	144.46
体 大塚少年	23.7 kg	26.5	30.5	34.5	38.5	42.0
重 全国男子 昭63年	21.51	24.20	27.00	29.85	33.70	37.48

昭和13年、13才で春日野部屋に入門した時、身長173 cm、体重68kgで、水をがぶがぶ飲んでやっとお情で検査をパスしたという。この少年が19年夏場所十両、22年夏場所新入幕、29年10月横綱免許、29歳。30年1月25日結婚。35年夏場所引退。49歳で理事長となる。



下小岩小学校の校章

2. 歴史的な一番に遭遇

春日野「昭和14年1月場所ですよ、大横綱双葉山の70連勝の記録がストップしたのは、偶然これを見たんですよ。（双葉山関が）負けるなんて思わないでしょ。まして4日目なんか。（安芸の海の）外がけだったんですよ。妻かったね、観衆の沸き方。

双葉関は勝った時と負けてさがる時と全然変らないんですよ。大抵しまったとか何とかやりかねないんだが、平常通りなんですよ。あれにはまたびっくりしたんですよ。」

〔双葉山関の胸を借りたことがあるんですね。〕
「1回あるんですよ。ちゃんこ番なんですよ。ちゃんこしてね、魚作ってね、うろこだらけなんですよ。洗ったら遅くなっちゃうんで、そのまゝとんで行っただけですよ。お願いします。双葉関がこういったんですよ、『臭いな』この一番だけ。だけどこれは一生思い出なんですよ」

3. まむしの由来

出羽錦（田子浦親方）はこう言っている。
「よく稽古をしたね。人の3倍も5倍もしたんじゃないかなあ。兎に角しぶとかった。ある時、部屋の稽古場に6代目菊五郎さんが来た時、『あの小さいのは何というんだ』『大塚っていうんです』『あの野郎まむしみたいなんだ。くらいいついたら離れねえ』それからまむしという異名になった。

何度も同じ部屋に寝たことがあったが、よく寝言を言ってねえ。それが全部相撲のことなんです。前へ出る、押せ、まだまだ。寝ていて相撲が頭から離れない。えらいもんだなあと思った。ある時先代の春日野親方が、稽古場で何か話している。何かと思って聞いてみると、『栃錦、疲れたら稽古をやめてもいいが最後まで勝ってやめろ。負けてやめたらいかんぞ。負けて休むと癖になる。稽古場で負けてはいかんぞ』びっくりしたことがあった、勝負の世界はそういうものかと」

4. ライバル

元横綱栃錦・春日野、元横綱若の花・二子山、二人の出合いは昭和26年夏場所初顔合わせから始まる。いわゆる栃若時代の幕開けである。

若の花「佐賀の花、神風、力道山、こういう錚々たる人が負けるんですよ。私と身長・体重そう変わらないでしょ。へそ一腰の強い、しぶといだなあと思ってね。早く顔を合わせてみたいなあと思ってね」

栃錦「あんな細い脚がどうしてあんなに力強いのか。

と思ってね。土俵ざわでもって行くんですよ。残されるんですね。よく見たんですけどね、必ず膝にゆるみがあるんですよ。ゆるみを伸ばさなければ倒せないでしょ。そのゆるみで残されるんですね。あの膝は強かったですねえ」

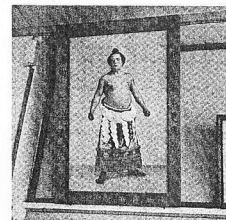
若の花「あの相撲は取り甲斐があったね、負けたけどねえ。お客さんに喜んでもらったからねえ。もう精一杯ですねえ」

栃錦「私の稽古はじーっと見てましたよ。それだけ研究してるんですよ。今のお相撲さんなんかね。自分だけとったらさっさと帰っちゃうでしょう。わし等幕下の時はね、十番上、十番下、全部ね相手の相撲を見て、これが得意だなどと研究したですね。彼（若の花）はね、じっとわしの稽古を見てるんですよ。昔の人の方が研究熱心ですよ」

〔そういう見ているなという事は分りますか〕

「分かりますよ」

若の花「見て稽古してるんだ。人間だからどこかに欠点あるでしょ。しぶといなあ、しぶといなあ、力が強くてもしぶといなあと思って見ていたんじゃないですか、私は相撲がうまいわけじゃないし」



横綱 栃錦清隆

5. 母校火災で勸進相撲

昭和33年1月25日午前1時25分頃下小岩小学校南側校舎附近から出火、12教室と人家を焼失、2時10分鎮火。当日は2人の警備員が当直、午前0時頃の巡回の際には異状がなかったのに、放火の疑いもあるとか。

火事の翌日栃錦はさっそく母校を見舞う。「復興資金の一助に横綱千代の山とともに大相撲を興行、利益を全部あげます。カレーライスをたくさん食わしてくれ、ばそれで結構です」2月15日校庭に土俵が造られ、観衆は数千人も集まった。利益の50万円がばんと寄付されたという。

6. 全勝同志の対決前夜

栃・若最後の勝負は昭和35年春場所千秋楽。横綱同志が共に全勝でぶつかるのは大相撲史上初めてと

か。前日の夜たかぶる気持を鎮めるために、栃錦は映画館に入った。そこへたまたま若の花も入った。若の花「眼が慣れないでしょ。眼が段々段々慣れて来るでしょ。そしたら前に坐っていたの、二階のね。その時分らないですよ誰か。若い衆二人ばかり連れてね。眼が段々段々慣れて来て、大体後恰好で分るでしょ。まげで見たら分るしね。それであー来てるんだな……と。それで映画見て、終わって、さーと出ちゃった。それで若い衆連れて天ぷらやに行つてめし食べて部屋に帰った。

結局、勝負というものを忘れるためにね。それでも前夜映画を見た時は、同じように酒の量を飲んで寝たんだが、よう寝たなあと思っても3時間か4時間経ったら眼がぱっと冴えちゃってね、早く朝来ないかな、早く明るくならないかなというようだった」

7. 引退

60年安保。時代の大きなうねりが押しよせるなかで、栃錦は引退の時を迎える。

優勝・準優勝と重ねながら、夏場所初日から2連敗したあとの突然の引退は日本中を驚かせた。当時の横綱審議委員で作家尾崎士郎は、引退する栃錦にこんなことばを送っている。

栃錦の土俵ほど実力と運命の美しき調和を示すものはあるまい。気魄と闘志は人間の裏づけによって光彩を発揮する。これなきものは、第一流の力士たるべき資格に価せざるものである。

8. 理事長の大仕事

春日野「相撲はどうしてもこの隅田川のほとりでなければ駄目なんだよ。下町のね。相撲が麴町に行ったりなんかしても駄目よ。もう何百年も続いているんだからね。夢を持ってそれに近づいて行かないじゃ駄目よ」昭和60年、総工費150億円をかけて国技館は完成した。収容人員11000人。

鹿島建設の石川六郎会長「最後に春日野親方と二子山親方が代表しておいでになりまして、これをするについて思い切つて勉強して欲しいという話がありました。私はそれは当然です、国技をやるんだから社運を賭してやりましょと申し上げましたら、社運を賭してだけか。損益を度外視してやります。理事長は身命を賭してやるといっている。私も同様、失敗したら春日野親方と腹を切りましょ。もっと負けて欲しい。結局10億ぐらい値引きをしましたかね。相撲は相手を負かすのが商売だから負けてくれよには参りましてね」

9. 春日野清隆逝く

平成元年11月、春日野は大相撲九州場所に備えて福岡入りし、手足のしびれを訴えて11月3日、宿舎近くの病院に入院、4日から福岡大学病院に移って治療を受け、脳梗塞のため絶対安静の状態が続いた。

親方の話はすべて身体を通して得たものが口から出て来るという感じがするが、8年間のつき人だった3段目 栃の浜にマッサージをして貰いながら言った言葉に大きな感銘を受ける。

「技は稽古から生まれる。なんぼ強くても稽古をやらなければ駄目だ。相撲は勘なんだよ」

春日野部屋は春日野の意向により、昭和39年この部屋から横綱になった栃ノ海（春日野見将）が継ぐことになり、協会は「後進に道を譲る」として昭和63年二子山現理事長と交代、相談役になった。

生涯努力の人 春日野清隆は、平成2年1月10日午前7時20分福岡大学病院で「真枝院大綱義照清隆大居士」となった。64歳

NHKスペシャル春日野清隆の相撲道、下小岩小学校、相撲博物館、産経新聞に負うところが多い。感謝。

事務局よりお願い

年間の出版物として事務局から各都道府県にお送りしているものに会報があります。

会報は41,500部、8～16ページ（今年度は8ページのみ）を2回。

送付先は数年前各都道府県から指定された所、それは県教委保健体育担当課であったり、会長先生のおられる事務局のある学校であったり、会長さんと別の事務局所在の学校であったりします。どこでも、その都道府県内公立小・中・高校の総数+αだけは送っています。ご多用のところへ数百部、千数百部とまとまって送られて来たものが、県内の学校1校1校に届くためには、担当して下さる先生のご努力に頼るより仕方がありません。迅速・確実な配布をお願いするとともに、内容に対する積極的なご意見を是非お寄せ下さい。

学校制服総合展示会

（ユニフォーム・トレーニングウェア）

期日 6月15日（金）・16日（土）

会場 大宮駅前 大宮ソニックシティ

主催 尾崎商事 kk（問合先 03-635-7655）

一輪車は、安全で安心な 日本一輪車協会認定マークのついた 一輪車を選びましょう

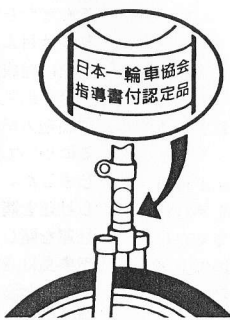
（親切な乗り方）
指導書付

日本一輪車協会では、学校や一般ユーザーが、安全で乗りやすい一輪車を選ぶ基準として、審査に合格した製品に認定マークをつけました。

日本一輪車協会認定品には、一台に一冊乗り方指導書もついています。

■学校での一輪車の選び方の目安は…
（認定マーク付は車種も揃っています）

車輪サイズ	年 令
16インチ	幼稚園年長～小学2年生
20インチ	小学3年～小学6年生
24インチ	中学生～大人



■指導用教材のご案内



一輪車指導書
「心と体を育てる
一輪車」
A5判・180頁
¥2,800
（送料不要）



一輪車指導用
ビデオテープ・
NHKビデオ教材
「小学校体育
一輪車運動」
20分 ¥7,000
（送料不要）

お申し込みは日本一輪車協会へ
（共に送料不要）



（社）日本一輪車協会 東京都渋谷区神宮前1-2-7
TEL 03-497-1048 FAX 03-479-5913